

講座 国際農林経済学講座

2.6.5 研究分野：森林・林業政策学分野

構成員：	教授	栗山浩一
	准教授	川村誠
	大学院修士課程	5名
	専攻4回生	4名
	博士研究員 (PD)	1名

A. 研究活動 (2010.4～2011.3)

A-1. 研究概要

a) 日本林業の現状分析

日本林業は第2次大戦後大きく変貌を遂げた。今日、森林資源の利活用段階に入っているが、外材が8割近くになり、林業は産業としての成立が極めて困難になっている。このような日本林業の比較劣位化進展の実証的把握と、それがどのような要因によるものかを明らかにし、再生のための森林・林業政策について研究することを課題にしている。

b) 森林等緑環境の外部経済効果に関する研究

森林等緑環境の役割には木材生産機能と公益的機能の二面がある。後者の機能は近年国民的に評価され、外部経済効果と認識されているが、市場メカニズムによって測りきれない効果である。本研究は、これらを単に間接的な効用と位置付けるのではなく、資源の経済的アロケーション問題として理論的、実証的に考察を進めている。

c) 木材産業システムおよび木材流通に関する研究

木材産業は、様々な木材を原材料として需要し、種々の製品を生産する。木材産業には、紙パルプ産業のような巨大装置産業から、製材業のように生産集中度の低い産業まで多様であり、それらに応じて木材の流通も複雑である。本研究では、木材産業システムや市場構造を明らかにするために、計量経済モデルを構築し、外的環境条件の影響分析や価格形成メカニズム等を考察している。

d) 林業・木材関連産業の産業連関分析

林業・木材関連産業は、他産業との種々の関わりの中で存立する。林業・木材関連産業の生産物はどのように需要され、どのような産業を経由するか、また産業間の相互依存関係や産業と最終需要部門との取引関係を明らかにするために、地域の産業連関表を用いて、林業・木材関連産業・その他産業の現状や相互関係の統計学的分析を進めている。

e) 比較林業論

林業・木材産業の比較優位国である北米林業および日本の経済発展を支えてきた熱帯林業の再生産構造を明らかにすることは、国際化の中にある日本の林業分析の大きなテーマである。本研究と関わって文部省国際学術研究の一環として、林産物輸出国の貿易および環境に関する政策分析を行い、世界的規模における林業動向の解明と日本林業の展望を模索している。

f) 国有林論

わが国の国有林経営が危機的状況にあることは衆知の事実となっているが、国や公的機関における森林の保護・管理はどうあるべきなのか。昨今、世界の多くの国で国有林問題が顕在化してきているなかで、我々はそうした国際的な国有林のあり方を比較分析し、わが国における国有林のあるべき姿を考察している。

A-2. 研究業績（国内・国外含む）

a) 成果刊行

著 書

・川村誠：「森林・林業基本法を一からつくり直すために理解すべきこと」（養老孟司『石油に頼らない一森から始める日本再生一』、北海道新聞社、2010 所収

原著論文（書評論文を含む）

・Kuriyama, Koichi, W. Michael Hanemann and James R. Hilger. A latent segmentation approach to a Kuhn-Tucker model: An application to recreation demand. Journal of Environmental Economics and Management, Volume 60, Issue 3, 209-220, November, 2010. (査読有り)

・西澤由隆・栗山浩一. 面接調査におけるSocial Desirability Bias—その軽減へのfull-scale CASIの試み, レヴァイアサン, 46号, 51-74, 2010年4月. (査読有り)

・栗山浩一「生物多様性を経済社会システムに組み込む」農業と経済, 81-47, Vol. 76, No. 10, 2010年9月号 (査読無し)

総説

・川村 誠：「世界一安い原材を用いた地元木材製品が輸入製材品より高くなる市場メカニズムについて」、ウッドミック No. 325、2010

A-3. 国内における学会活動など①

所属学会等（役割）

- ・栗山 浩一：環境経済・政策学会（プログラム委員，学会誌編集委員）
- ・川村 誠：林業経済学会（理事，評議員）、日本森林学会

A-3. 国内における学会活動など②

競争的資金等獲得状況

①科学研究費補助金

- ・基盤研究（B）：栗山浩一：世界遺産における観光利用と保全政策の経済評価－フィールド実験による分析

②その他の競争的資金

- ・環境省環境経済の政策研究：栗山 浩一：水分野における経済的手法を含めたポリシーミックスの効果と社会影響に関する研究

A-4. 国際交流・海外活動①

所属学会等（役割）

- ・栗山 浩一：米国環境資源経済学会（会員）、欧州環境資源経済学会（会員，プログラム委員）

- ・川村 誠：IUFRO・国際森林・林業研究機関連合（会員）

B. 教育活動（2010.4～2011.3）

B-1. 学内活動

- a) 開講授業科目（担当教員）

- ・学部： 林業政策学（栗山）
林業経済学（川村）
林業政策学演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ（栗山・川村）
- ・大学院： 林業政策学Ⅰ・Ⅱ（栗山）
森林資源経済学（川村）
林業政策学専攻演習Ⅰ・Ⅱ（栗山・川村）

B-2. 学外における教育活動

学外非常勤講師

- ・栗山浩一：早稲田大学政治経済学部（環境経済学，専門演習）
- ・栗山浩一：早稲田大学経済学研究科（環境経済学研究指導）

公開講座等

- ・栗山浩一：環境評価講習会，京都大学農学研究科生物資源経済学専攻，代表者

C. その他

・栗山浩一：環境省，費用対効果分析手法検討会（委員）、環境省，地球温暖化対策に係る中長期ロードマップ調査検討会（農山村ワーキンググループ専門委員）、農林水産省，バイオマス活用推進専門家会議（委員）、国土交通省，琵琶湖の総合的な保全のための計画検討調査委員会（委員）、滋賀県，造林公社経営計画検討委員会（委員長）、内閣府，交通事故の被害・損失の経済分析に関する調査検討会（委員）

・川村 誠：林野庁，森林・林業基本政策検討委員会（委員）、国交省，木の家づくりから林業再生を考える委員会（委員）、兵庫県，モンゴル森林再生委員会（委員）、滋賀県，びわ湖造林公社（理事）、徳島県，次世代林業プロジェクト策定委員会（委員）、徳島県，徳島県造林公社あり方検討委員会（委員長）、高槻市，緑化森林公社（理事）